

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 22 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	櫻井 聡
研究課題	利用可能なオープンデータをマーケティング研究に活用するための探索的研究およびブランド研究				
研究キーワード	オープンデータ、ブランド、消費者行動分析、テキストマイニング	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	12. つくる責任 つかう責任	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

2023 年度の研究課題はふたつあった。

- A. ひとつ目は、オープンデータ（例えば e-stat）のような無料ないし比較的安価に利用できるデータ（2 次データが多い）をマーケティングへ有効活用するためのアプローチ方法を探索的に追求することである。23 年度は観光庁 HP で公開されている「都道府県別観光入込客統計」のオープンデータをダウンロードし、実証分析を幾つか試みた。主に県外宿泊客数を目的変数とした、回帰モデルを推定し、予測力の検証用データを用いて予測力を検証するなどした。学会発表を春学期と夏休み期間の 2 回行い、それをブラッシュアップしていった。23 年度の論文化は間に合わなかったが、24 年度の春学期に香川県で開催される、海外の学会の発表へ向けた準備を行っている。
- B. ふたつ目は、5 年前から取り組みだしたブランド論に関する定性データの分析である。大学院時代の同僚と開始した共同研究プロジェクトである。学会発表等の成果までは至らなかったが、20 答法で収集した自己概念の定性データを使ったクラスター分析を試みた。まだ検討すべき点は大いにあるが、発表へ前進しうる結果が得られ、その方法の学術的および実務的意義について討議中である。また、共同研究者が、この研究プロジェクトと親和性の高い研究内容で、研究助成金を獲得し、それを使って行う定量調査の設計を共同で行った。調査自体は 24 年度実施予定である。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

なし

【学会発表等】

櫻井聡・柴田典子・永松陽明「オープンデータを併用した人流予測モデル構築の検討」第 70 回日本経営システム学会全国兼空発表大会、2024 年 5 月 20 日、東海大学品川キャンパス。

櫻井聡・柴田典子・永松陽明「オープンデータを併用した人流予測モデル構築」日本経営システム学会 ネットワーク研究部会 第 1 回研究部会、2024 年 8 月 2 日、新潟国際情報大学。

3. 主な経費

統計ソフトのアップデートのため IBM SPSS を購入した (65,340 円)。その他、ウイルスバスター、ATOK、Acrobat、Readable のソフトウェアを購入した (合計 40,359 円)。

作業効率化のため、PC 用モニターを購入した (70,269 円)。

所属学会の年間会費、学会への参加費及び経費で総額 52,116 円を費やした。

その他は主に、関連書籍、文具、PC 周辺機器に費やした。

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

【科学研究費】基盤研究(C)、令和元年度～令和 5 年度、研究分担者、課題名「消費者の自己表現と自発的ブランディングの理論と実証」(18K01881)

(本文は 2 ページ以内 にまとめること)